

令和元年度

校長室だより2月号 No.10

宝達志水町立押水第一小学校 R2.2.10



いよいよ2月です

2月3日は節分です。そして、暦の上では春を迎えます。そのような中、本校の子どもたちは、長休みや昼休みの時間には元気に外遊びをしたり、縄跳びの練習をしたりして過ごしています。この時期には、インフルエンザなどが心配されますので、引き続き、学校でも手洗いうがいを励行し、予防に努めていきますのでご家庭でもご協力をよろしくお願いいたします。

さて、いよいよ6年生の子どもたちは、卒業へのカウントダウンの時期となりました。最高学年として、学校生活のあらゆる場面でリーダーとなり、「押水第一小の顔」としての活躍をしてくださいました。また、6年生一人一人には、残り少ない小学校生活の一日一日を大切に過ごしてほしいと思います。そして、今、その6年生の姿を引き継ごうとしている5年生の子どもたちにも、次のリーダーとしての期待に応えようと燃えるようなエネルギーが感じられます。一方、昨年春に入学した1年生の様子を見ますと、しっかり先生の話聞き真剣に授業に取り組んでいます。そして、あどけなさの中にも自信溢れる言動が数多くみられるようになり、子どもたちの成長した姿を感じ、とてもうれしく思う今日この頃です。

2月の全校集会を3日（月）に行いました。生徒指導の方から今月の生活目標「感謝」についての話がありました。最近、私はどのような心で暮らし、どのような心で人に接していけばよいのか考えることがあります。私は日頃の生活の中でお世話になっている人に対し、つい相手への感謝の気持ちを言葉で伝えることをおろそかにしてしまったり、時には感謝の気持ちに心を向けないでしまったりすることがあります。とりわけ家族に対しては、なかなか素直に感謝の気持ちを伝えられないことがあります。そのため、今までの生活を反省し、今はできる限り日常生活の中で意識して「ありがとう」の一言を添えて生活をするようにしています。自分の感謝の気持ちを伝えることは、お互いの喜びを生み、心豊かに過ごすことにつながるのではないかと考えているのです。

私たちの生活には、感謝の気持ちを伝える場面がたくさんあります。例えば、親子関係であれば、子どもが家でお手伝いをしたり、親が子どものために何かをしたりする機会はたくさんあるかと思います。そのようなときには、その感謝の気持ちをお互いに素直に言葉で伝え合っていきたいものです。



では、感謝の気持ちを相手に伝えるときに必要なのは何でしょうか。それは、ほんの少しの勇気ではないかと思います。この勇気は、大人も子どもも同じだと私は考えています。そして、もし、親子で日頃伝えることができている「ありがとう」があることに気づいたなら、この機会に親から子へ、子から親へご家庭で感謝の言葉を伝え合ってみてはいかがでしょうか。きっと、親子で幸せな気持ちになれるかと思います。

私たちは、人から感謝されたとき、幸せな気持ちになります。しかし、幸せを感じるのは「感謝された側」だけではありません。「感謝した側」もまた幸せな気持ちになるところに、感謝の言葉を伝える大切な力があるように感じます。

令和2年になり3学期がスタートした最初の土曜日に、左義長と餅つき大会をPTAの方々、地域の方々のお力添えを頂きながら実施することができました。自分たちの書初めの作品が燃え上がる様子を見守る子どもたちの真剣な眼差し、そして、そのあとの餅つき大会で楽しそうに餅をつき、おいしそうに餅を口いっぱい頬張る子どもたちの表情を見ると、子どもたちにとって心に残る1日になったんだなあと思いました。お世話いただいた保護者の皆さんや地域の皆さんには言葉に言い尽くせないくらい感謝しておりました。当日も皆様方にはその気持ちをお伝えしたつもりですが、後になって校長としての感謝表現がこれでよかったのかなと反省をしておりました。

今回「感謝」というテーマで執筆させていただきましたので、紙面上ではありますが、再度、これを機会に御礼申し上げたいと思います。誠にありがとうございました。



第一っ子祭り開催

1月29日（水）

本校で、はじめて企画した行事です。6年生が中心となって各委員会で遊びのコーナーを作りました。全校児童が遊びを通して交流できました。

6年生が各ブースを企画・運営し、5年生が下級生を案内する役を担い、全

校児童が充実した楽しい時間を過

ごすことができました。

後日の低学年の日記を見ても、「とても楽しかった」「また、やってほしい」といった記述が



たくさんありました。



卒業までカウントダウン

今日7日現在で、卒業まで登校する日があと24日となりました。学校では、卒業に向けての準備が着々と進んでいます。私が確認している範囲では、卒業生の式歌の練習、卒業式での門出の言葉は各担当が順調に指導をしています。

今年度の卒業生の歌は、音楽担当・茶木先生の指導の下、すばらしい歌声に仕上がりにそうです。今後、各学年の児童数が20名を超えることは、まずありえませんが、今年度の卒業生の歌が、まとまった人数での2部合唱が最後になります。そういう意味でもとても楽しみにしています。



(写真は、平成30年度の様子です)

先日、門出の言葉(案)に目を通しました。卒業生一人一人に合わせた言葉が2つずつ割り当てられていました。楽しかった思い出、保護者の方々、地域の方々への感謝の言葉、中学校に向けての決意表明などがあり、卒業式当日は、気持ちを込めて表現できると思っています。

私も、卒業式に向けて1つ頑張ろうと思っています。それは卒業証書の作成です。当日、子どもたち一人一人に私の手から渡す卒業証書は、できるだけ自分



で作りたいと以前から思っていました。一般的には、校長が地域の書道家に依頼して作っています。しかし、子どもたちの名前を書く練習をして、気持ちを込めて作ろうと決め、先日から練習を始めました。出来栄は例年に比べて皆さんから見ると劣るかもしれませんが、何卒、校長の我がまを聞いて下されば幸いです。

(写真は、平成30年度の様子です)

卒業まで、1か月を切りました。学校は、最後の大きな行事のために、職員一丸となって皆様方のご期待にお応えできますよう頑張ります。よろしく願います。

寒さに負けず縄跳び集会開催

2月5日（水）

5日（水）縄跳び集会を行いました。各学年の体育の時間を中心に個人技を練習し、長休みを中心に高学年がリーダーとなって縦割り班で長縄跳びの練習をしていました。



集会では、これまでの練習でよくがんばってきたことや高学年のリーダーが低学年のお世話をしてくれたことについて触れつつ、今回は、長縄跳びのまわし手のことについてコメントをしました。

大縄跳びのまわし手は、決して縄跳びが苦手だからまわし手になっているのではありません。まわし手とは、そのチームのことがよくわかっている人ができるので

す。みんなのことをよく考え、どうしたらみんなが調子よく跳べるかを常に工夫している人です、と言いました。どちらかと言えば地味であり目立たない役割かも知れませんが、そういう「縁の下の力持ち」の役をする人がいて、物事が成り立っていることが実感できる場面でもありました。

その他、せっかく長い間練習してきたのに、個人技の場面に2、3度跳んで失敗してしまいとっても悔しそうにしている児童がいたり、最後の見せ場で3重跳びを披露して拍手喝采を受ける児童がいたりと様々な場面がありました。印象深い内容のある縄跳び集会で本当によかったです。子どもたちの頑張りをご家庭でも褒めて下さい。



寒い朝、玄関前の奉仕作業、長休みの外遊び

本格的な冬がやっと訪れました。

玄関前に氷がはって滑りやすい状態だったため、高学年の児童が率先して氷削りの奉仕作業してくれました。先日のワックスがけの後始末に引き続きの奉仕作業です。学校のために、皆の役立つことだったら進んで行動しようという気持ちがとてもうれしかったです。



一方、低学年の児童は、待ちに待った雪がほんの僅か降ったので、名残惜しそうにみんなで楽しそうに遊んでいました。やっぱり子どもたちは元気でした。